

教科・領域等 [職員研修(外国語)]

1 (7) 学校間連携

こんな実践

教科学習の小中接続は意識しているでしょうか。小学校での外国語の教科化をきっかけに、系統性を意識した授業づくりを目指した実践です。

実践学校 L中学校 区内の3つの小学校(いずれも大規模校)

特に、L中学校にはほぼ全員が進学するL小学校

実践時期 移行期間開始前の平成29年度2月～30年度3学期

4校の小中連携は、小中の校長間の連携と、中学校の教科主任のリーダーシップのもとで始まりました。

○【平成29年度・2学期】

校長間で次年度の外国語活動の時数の統一等、ハード面について話し合われました。またその中で、職員間の連携や年間指導計画の共有の必要性も確認されました。

○【平成29年度・12月】

学習指導要領改訂を前に、L中学校では、英語の年間指導計画を見直しました。小学校での学習内容を中学校での授業に生かすため、英語科主任が校区の3つの小学校を訪問し、小学校の実態について情報収集をしました。そこで、4校合同教科会の開催を決めました。

○【平成29年度・2月】

小中連絡会後の時間を利用し、3つの小学校の外国語活動主任と中学校の英語科職員が集まり、合同教科会を行いました。そこでは、移行期間1年目の授業時数を50時間、2年目を70時間と段階的に増やしていくこと、水曜日を6時間授業にして時数を確保することなど、ハード面での統一を図りました。さらに、授業内容についての情報交換をし、今後、4校で年間指導計画を共有していくことを確認しました。

○【平成29年度・3月】

合同教科会を受け、次年度の年間指導計画作成について小学校間で電話連絡を取り合い、悩みの共有・情報交換をしました。

○【平成30年度・6月】

B小学校で、外国語の教科化に向けた校内研修を行いました。(外国語の学校支援ボランティアも参加)英語の専門的な知識をもった中学校の先生をアドバイザーとして招き、授業での教師と児童の英語でのやり取りの練習を行いました。また、小学校職員が生徒役となり、中学校の先生による模擬授業を体験しました。



英語のやり取りを練習する様子



中学校の先生の模擬授業を受ける様子

○【平成30年度・10月】

B小学校5年生の学年研究で、外国語活動の授業を公開しました。今回は都合がつかずに実現しませんでした。A中学校の英語科の先生にも参観を呼びかけました。

○【今後 平成30年度・3学期】

次年度の移行期間2年目に向けて、2回目の合同教科会を開き、情報交換を行う予定です。そこでは、今年度の年間指導計画を持ち寄って成果と課題を共有し、来年度の各校での教育計画作成に生かしていく予定です。



ここがポイント！

校外との情報交換の場の設定は、時間的にも容易ではありません。校種を越えた、大規模校間ではなおさらです。年間計画に位置付けている小中連絡会後の時間を活用することで、小中4校合同の教科会が実現しました。一度顔を合わせた会議を行い、つながりができたことで、メールや電話での情報交換も行いやすくなりました。

まとめ

子供たちは、小学校の学習を基に中学校へと進学していきます。小中接続を意識して、教員も、目の前にいる子供たちが、どのような学習を基にどのように学習を広げ、深めていくのかを知ることが大切です。

学校間連携においては、教科主任等のその分野での中核となるリーダーがリーダーシップを発揮し、校長や教頭と連絡を取りながら、積極的に情報交換の場を設定していくことが大切です。